

松本翔は取り組みます!



令和4年度 渋谷区予算事業概要

新型コロナウイルス感染症については、オミクロン株の発生により、年明け以降急速な感染拡大が続き、まん延防止等重点措置が適用されるなど、予断を許さない状況です。渋谷区では医師会および医療事業者と協力し、3回目となる追加接種や5歳から11歳までの小児接種について、接種会場の設置や個別医療機関の確保など接種体制を整備し、区民への丁寧な広報を行うなど、対策を進めてまいります。

令和4年度当初予算においては、上記の感染症対策はもちろん、区制施行90周年という節目の年を迎える本区の未来を見据え、「人づくり」「まちづくり」に積極的に取り組んでいきます。その結果、一般会計予算総額は1062億6700万円となり、対前年6.9%増、過去最大の予算規模となりました。本特集号では、次の8項目について解説します。

デジタル地域通貨事業

区内の店舗で使用できる渋谷区独自のデジタル地域通貨を導入し、利用時に様々なインセンティブを付与することで、区内の産業振興を図るとともに、区の事業や地域コミュニティでの活用についても推進します。開始予定は令和4年9月で、スマートフォンアプリを利用し、本年度において様々なキャンペーンを予定しています。



重層的支援体制整備事業

これまでの支援体制では対応困難な複雑化・複合化した地域住民の課題に対応するため、「属性を問わない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に実施します。令和5年度からの「重層的支援体制整備事業」の実施に向け、前段としての具体的施策の検討、実施計画の策定等を行います。



学校施設長寿命化計画に基づく学校施設整備

本区の学校施設の多くが1960年代から1970年代にかけて建設されたもので、約75%が建築後30年を経過しています。学校施設整備に当たっては、新たな学校施設の未来像を描き、学校関係者や地域等とビジョンを共有しながら進めていきます。青山病院跡地といった都有地の活用も視野に入れながら、令和4年度から順次基本計画作成に着手します。



一般社団法人渋谷ユナイテッドとの連携

文部科学省が示した学校部活動の地域移行化の方向性に先駆け、令和3年10月に設立した「一般社団法人渋谷ユナイテッド」と連携し、「部活動改革」を行います。生徒のニーズに応える10種目の部活動を設置するとともに、地域スポーツ活動の活性化を推進するため水泳と陸上の2種目の教室を行い、「総合型地域クラブ」への発展を目指していきます。



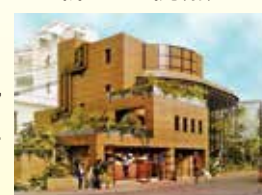
プラスチック資源回収事業

家庭から排出されるプラスチックを「資源」として回収し、ごみ減量、最終処分場の延命化を図り、さらに温室効果ガスの排出削減をはじめとした地球環境への負担軽減を図ります。令和4年7月からの開始予定で、容器包装プラスチックと製品プラスチックを同一袋にて、週1回の資源回収日に合わせて回収します。



ふれあい植物センターリニューアル事業

渋谷清掃工場の地域還元施設として平成17年度より運営してきたふれあい植物センターの経年劣化が顕著となっていることから、リニューアル整備を行います。これまでの施設の位置づけを踏まえ、「農と食の地域拠点」という新たな視点のもと、栽培から収穫、消費までの機能を備えた施設として来年7月のオープンに向けアップデートします。



西参道プロジェクト

明治神宮が令和2年に鎮座100年を迎えたことを契機に、明治神宮へ通じる西参道と、隣接する首都高速道路4号線の高架下の整備が進行中です。高架下には将棋文化を発信し、地域交流へつながらる新施設「駒テラス西参道」を整備し、来年度のグランドオープンを予定しています。



高齢者デジタルデバインド事業

ウィズコロナ時代に求められる「新しい生活様式」では、スマートフォンなどのデジタル機器が生活の質を向上させる重要な役割を担うことが期待されています。スマートフォンの基本操作やSNSなど各種講座、デジタル活用支援員による無料相談窓口の拡充などにより、高齢者のデジタル機器の利用を促進し、高齢者の生活の質の向上を目指します。



渋谷区議会議員 松本翔 は、バランスのとれた施策を実現します